

# 英語テストのストラテジー（2）

高橋 守

## はじめに

高橋（2003）では、英語テストを受験する際の方略として技能別に読解と語彙の方略を取り上げ、聴解（リスニング）と、英作文と、文法に対処するための方略は、稿を改めて論じることとしていた。今回の報告では、リスニングテストの方略の問題を中心に取上げて、どのようにしたら効果的にリスニングが出来るようになるのか、またどのような方法が効果的なリスニングの指導方法となるのか検討を行なう。

## 1 リスニングテストの方略の位置付け

英語教育に関連して研究されているストラテジー＝方略は、次のように分類される得るだろう。

学習ストラテジー：L2 学習者が語彙や形式を覚えて使えるようにするために使用する技術である。

コミュニケーションストラテジー：対話者とのやりとりを保持し、修正する技術である。

英語テストのストラテジー：英語のテストで高得点を取る技術である。

学習ストラテジーは、優れた言語学習者の特質を理解しようとする試みから考案された。学習ストラテジーの研究で発見されたストラテジーは、Ellis(1994)に詳しくまとめられている。学習ストラテジー研究の最も初期のものは、Rubin(1975)である。そこでは、学習者の用いる重要なストラテジーの例として次のような項目が挙げられている。(1) 理解できる単語を聞いて、他の部分も推測できる。(2) 話題、話の状況、話者の態度の中に意味を理解するための手がかりを、積極的に探す。(3) たとえ自分が過小評価されるような状況でも、L2 を使って意志を伝えようとする。(4) 新しい文を作り、自分が新たに獲得した知識を試そうとする。

コミュニケーションストラテジーは、英語学習者が会話をするとき用いる方略で、例えば自分から新しい話題を切り出して会話の流れを変え、得意な話題に持ち込むことによって、会話を主導的に進めるという方略などがある。コミュニケーションの方略とは、英会話の方略であって、本稿の主題であるリスニングの方略とは一線を画する。しかしながら、実用的な英語使用にあたっては身に付けておくべき技能であり、必ず教室で指導すべき事項である。

学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジーは、大学の研究者によって過去何十年の間研究が進められてきたが、英語テストのストラテジーは、英語教育の研究というアカデミックな営みとは馴染まないらしく、主に大学の外の人々によって行なわれて来たと言わざるを得ない。しかし、このストラテジーもリスニングストラテジーを形成する要素であるので、本稿においては最後にそのような研究の成果を引用した。

## 2 教室におけるリスニング指導とその課題

Shimo(2002)によれば、日本人学習者の多くは、リスニングは難しいという否定的な信念を持っている。リスニングに関しても、他の技能と同様に学習上の目標を持たせることが必要であり、英語に対する心理的な障壁を、取り除くことも必要である。そのために、筆者も学生の話す英語が文法的・語法的に違っていても、口頭で「それは違う」と述べる代わりに、正しい言い回しを提示するという工夫をしている。このように、学習者に積極的且つ意欲的に学習に取り組ませるために、絶対に文法的・語法的な間違いを恐れず英語を使用するようにと指導する必要がある。このように指導することによって、彼等の学習が、コミュニケーションのための英語学習であることが、明確になるのである。

リスニング力を向上させる試みの一環として、本学1年生の授業で、伝言ゲーム（英語では whispering game）を行なった。60名のクラスを4分割して、4つのグループの最初の人全員に同じ文を囁いて伝言をさせ、最後の人に聞き取った文を板書させた。出題した文は、中心部分が合計9個の単語（うち1つは連語）からできていた。（I ate broccoli, cabbage, red cabbage, tomatoes, spinach, and rice.）解答した単語をチェックすると、1つのグループは7個、2つのグループは5個、1つのグループは2個の単語を正解した。解答した単語の数だけは、全てのグループが同様であった。興味深く思われたのは、不正解となった単語が、pancakeやscrambled eggなど全て別の食品に入れ代わっていたことだった。ここで観察されたことは、短気記憶を引き出して伝達しようとする時に、不明の単語をあらかじめ知っている単語で置き換えるという置換作業が行なわれたことである。これから推測されるのは、リスニングには、2つのプロセスが関係しているということである。一つは、相手の話すスピードに合わせて聞き取りをすること、もう一つは、聞いた直後に短期記憶に聞き取った内容を保存するというプロセスである。今回行なわせたアクティビティの場合では、相手に何度でも聞き返すことができるため、相手のスピードに慣れていないとか、相手の発音になじみがないという理由で、聞き取りできなかったということにはならない。聞き取った内容を、短気記憶に残していたことのみが、リスニングの成功につながっていると推測されるのである。従って不正解の解答を出したグループの誰かが、これらの単語を単純に記憶できなかったか、もしくは最初からその単語を知らないために記憶できなかったと推測される。

リスニングの練習として英文を聞かせる場合、一般的には同じ英文を聞く回数が多いほど内容が良く分ると言われている。しかし高橋・椎名・竹蓋(1998)は、同じ英文を何度聞いても理解できない場合があると報告している。この場合、日本人学生が聞き取れないのは、聞いている文の中に連結された音（リエゾン）によって、違って聞こえる単語があるからである。先に伝言ゲームを行なった本学1年生の授業で、英語のフレーズの縮小形（contracted form）の指導を行なった。これらのフレーズは、wannaや gottaなど英語母国語話者の間では日常的に使用させるものである。学生には、あらかじめ元のフレーズと縮小形を表にしたものを配付しておき、それらのフレーズを一枚毎にカードにしたものを使って、トランプの神経衰弱と同じ要領で記憶ゲームを行なわせた。ゲームの勝敗の結果としては、殆ど個人差がなかった。しかしながら、大部分の学生にとってwanna, gonna, gottaの3つを除いた他の縮小形は、初めて見るものであった。ここから推測されるのは、通常行なわれているキーワードを問う形式のリスニング問題の演習では、常に内容のある語を聞き取らせようとしてきたため、それ以外の部分に対しては、重点が置

かれなかったのではないかということである。日本人学生の聞き取りの能力を伸ばすためには、キーワードである内容語を中心とした聞き取りの練習問題から、キーワード以外の英語を聞いて意味が分るようにする指導を行なうことが必要であり、この指導法の開発が今後の課題であろう。数十年前には、聞き取る英文の意味から全く切り離して、英語の連音の聞き取り指導がよく行なわれていた。しかし、現在では意味を伴わない音声指導は、効果がないと言われている。従って英語特有の連音やアクセントの知識に関する指導は、知識が定着しやすいように学習者が心理的にそれらの知識に対する強い印象を植え付けられ、更に定着するような方法を工夫する必要がある。具体的には、ゲーム活動は効果的な方法であろう。心理的に強い印象を持たせるとは、つまり学生に何も考えさせないで言葉を繰り返し言わせる代わりに、意味をもつ一連の言葉の流れを繰り返し体験させることによって言葉の知識の定着を図るということである。

学習者にバランス良くコミュニケーションの力をつけるためのリスニング指導方法としては、ESL教員養成用に書かれたDoff (1988) とUr (1991) にそれぞれ次のような章立てで、リスニングの教え方が解説されている。Doff (1988) :リスニング活動;フォーカスされたリスニング;生徒のリスニングを補助する;カセットテープを使う;生徒に予測をさせる。Ur (1991) :現実生活の中のリスニング;教室の中の現実生活のリスニング;学習者の問題;活動のタイプ;活動に順応させる。これらの指導方法を、実際の授業にも有効に活用したいものである。

### 3 トップダウンとボトムアップ

リスニングの指導方法は、近年では研究者らによって様々な提案がなされているが、それらはボトムアップとトップダウンに大別される。Jafarpur and Yamani (1993) によれば、古典的なボトムアップアプローチであるところのディクテーションは、リスニング力の向上に役立たないとされる。近年はよりトップダウン的な方法、すなわち意味にフォーカスさせる方法が、多く用いられるようになってきているようである。Ridgeway (2000) は、学習者に対して大量に理解可能なインプットを与えることを提案している。これも一つのトップダウンの試みであろう。近年のリスニングに関する研究では、トップダウン処理に関するものが多いのだが、行き過ぎたトップダウン方式への依存に対する反省の視点からの研究も出てきている。Wilson(2003)は、前後関係から意味を類推する方法は必ずしも効果的ではないと主張し、学習者本人にリスニングの際に理解できなかった点を気付かせる、ボトムアップ方式のリスニングの演習の方法を提案している。

### 4 英語リスニングテストを受ける前の練習方法

トップダウンとボトムアップという方式を、それぞれ多読と精読に例えるならば、英語リスニングテストを受けるための練習方法は、多聴と精聴に例えられるであろう。実践的な英語力を身に付けるには、どちらも大切である。多聴の場合、キーワードを捕らえる聞き方を目標にして聞き、全体の要旨をつかむようにする。よく市販の英語学習方法の本には、CNNテレビなどを見て練習するように書かれている。精聴の場合には、分らないところを何度も聞いて、知らなかった単語やイディオムを書き出したりして覚える。リスニング力強化のための練習には、量に勝る方法はないかもしれない。日本語禁止の英語学校を主宰している稲垣弘道氏 (<http://www.eigo>

zuke.co.jp/study.html)によれば、とにかくリスニングは量が大切であり、内容を聞き取ろうとして聞いているうちに、理解できる英語の量が次第に増えてゆくとアドバイスしている。しかしながら、教室の中でひたすらビデオやテープを流してリスニングのトレーニングを行なうのは、効率的ではない。Richards(1993)は、テープなどの機械を使用した練習方法の欠点として、学習者が疑問点を聞き返したりコメントを加えたりすることが出来ないことを挙げている。教室でのリスニング指導の際には、指導者はこの点に気をつけて、学習者との対話を心掛けるようにしなければならないであろう。

## 5 TOEICのリスニングテストを受けるための方略

最後に、実際の英語テストの受験ストラテジーとしてTOEICのリスニングテストを受けるための方略を取り上げる。TOEICのリスニング試験を受けるには、まず出題形式を頭にいれる必要がある。リスニングは、前半のリスニング45分間である。まずPart Iは、写真の問題である。Part IIは、英問英答である。人物Aの発言があり、人物Bの応答がある。英問英答に続いて聞こえる3つの選択肢から答を選ぶ。Part IIIは、英問英答である。人物A→人物B→人物Aの順に続く会話を聞く。質問と選択肢(4択)は印刷されている。Part IVは、ショートトークである。数行の短い話が読まれる。

Part I写真問題で何秒後に何が起るのだろうか。公式問題集で計ってみると次のような結果だった。AからDまでの選択肢の読まれるトータルタイムは、12~15秒。選択肢と選択肢の間は、0.8秒。設問と設問の間は、5秒であった。

それから重要なことだが、意味の単位となる1つの英文はどれくらいの長さだろうか。写真問題と英問英答問題の1文は何語で出来ているか、公式問題集で数えたところ、5~9語であった。これは1956年にMiller(1959)が発見したマジカルナンバー7に符号している。ミラーの発見した法則は、人間の短期記憶は(30秒から1分30秒間覚えていられる記憶)7±2語であるという。

TOEICのエキスパートである韓国のキム・デギョン(2003)によるTOEICのリスニングパートを解答するための方略は、次の通りである。

### Part I を解答するポイント

1. 正解の約80%が現在進行形を使っている。
2. 写真にない名詞が聞こえたら正解ではない。
3. 似た発音に注意する。
4. 抽象的な内容は正解ではない。
5. 主語は写真と合っているが、動作が写真と違う選択肢に注意する。

### Part II を解答するポイント

1. 設問の最初の単語を確実に聞くこと。
2. 設問に使われた単語と同じ単語が含まれる選択肢は答ではない。
3. 疑問詞で始まる疑問文にはYES/NOで答えられない。
4. orが含まれる選択疑問文もYES/NOで答えられない。
5. 主語の人称に注意する。設問と答の選択肢の主語の人称は基本的に一致する。
6. 設問と答の選択肢の助動詞(do, did, can, couldなど)の時制(つまり現在か過

去か未来か) が違えば、正解ではない。

Part III を解答するポイント

1. 正解のヒントを最初の発話で探す。Part IIIは90%最初の発話に答がある。
2. 正解のヒントを最後の発話で探す。

Part IVを解答するポイント

1. 問題文が流れる前に、設問から2~3問を読んでおく。
2. 問題用紙にある設問と選択肢を見ながら内容を聞く。
3. 聞いている途中で、解答の手掛かりがあれば、すぐに解答する。
4. 設問が2問出題される問題文が7つ、3問出題される問題文が2つある。普通は、「2-2-3-2-2-2-2-3-2」

## おわりに

本稿では、学習者のリスニング力を高めるための方法として、どのような練習方法や指導方法があるのかを、簡単に概観してきた。

まず英語教育の中で使用されるストラテジーという言葉の、大別して3つに分類される意味について触れた。学習ストラテジーは、より優れた学習者が用いる英語学習の方略のことであり、コミュニケーションストラテジーは、英語学習者が英会話に用いる方略のことである。英語テストのストラテジーは、学習者が英語テストを受けるときに用いる方略のことを意味する。

次に実際の教室におけるリスニング指導について触れ、ゲームを使ったリスニングの活動とその問題点について言及した。話すスピードが遅く、何度でも聞き返すことのできるような状況でのリスニングでは、単語を知らないことがその単語を短気記憶に入れることの出来ない原因になっていると推測された。また文の中ではあまり重要でない語を知らないために、リスニングが出来ないことも推測され、従来のキーワードを中心とするリスニングの練習問題のあり方も考え直す必要があることが、推測された。改善されたリスニングの練習が、機械的な練習にならないように、配慮する必要性も推測された。

そして次に現在広く行なわれているリスニングの練習が、トップダウンとボトムアップに大別されることに触れた。リスニングテストを受けるための練習方法としてトップダウンとボトムアップの両方の練習方法を取り入れて行なうべきことが、明らかになった。

最後に実際のリスニングテストを受けるための方略として、TOEICの受け方に触れた。

英語テストの受け方の方略と、英語テストを受ける準備のための指導方法や学習ストラテジーについて考察を、重ねてきて感じることは、英語学習者は流暢さを高めるための練習を積み重ねることを第一の目標に置くことが大切だということである。TOEICや英検のテストに出題されるのは、結局は文法・語彙・語法である。しかしそれだからと言って、文法問題の練習や単語の暗記だけでは、リスニング力は培われない。そもそも聞く・話す活動なしに実用的な英語使用は不可能である。

今回は、リスニングテストのストラテジーについて、考察を行なった。英作文と文法の問題に対処するためのストラテジーについては、また稿を改めて考察を加えたいと思う。

## 参考文献

- キム・デギョン(2003).『TOEIC Test「正解」が見える』講談社インターナショナル
- 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会(2000)『TOEIC公式ガイド&問題集』  
国際コミュニケーションズ
- 高橋秀夫、椎名紀久子、竹蓋幸生(1988).リスニングの理論と指導に関する基礎的研究.  
*Language Laboratory*, 25, 3-13
- 高橋守(2003).英語テストのストラテジー(1).『秋田県立大学総合科学研究彙報』4, 17-23.
- 松本和子(1996). 学習ストラテジーとは何か. *The Language Teacher*, 20, 17-19, 32
- Broughton, G. [et al.] (1980) *Teaching English as a Foreign Language*. London; New York : Routledge
- Celce-Murcia, M. (ed.) (1991) *Teaching English as a Second or Foreign Language*. Boston, Mass. : Newbury House
- Doff, A.(1988) *Teach English*. New York; Cambridge:Cambridge University Press
- Ellis, R. (1994) *The Study of Second Language Acquisition*. New York: Oxford University Press
- Jafarpur, A. and Yamani, M. (1993) Does Practice with Dictation Improve Language Skills? *System*, 21, 3, 359-369.
- Millar,G.(1956) The Magical Number Seven Plus or Minus Two. *Psychological Review*, 63, 81-97
- Richards, J.(1993) Real-World Listening in the Japanese Classroom. In Wadden, P. (ed.) *A Handbook for teaching English at Japanese Colleges and Universities* (1993) New York : Oxford University Press
- Ridgway, T. (2000)Listening strategies - I beg your pardon? *ELT Journal*. 54, 179-185
- Rubin, J.(1975)What the "Good Language Learner" can Teach Us. *TESOL Quarterly*, 9, 1,41-51
- Shimo, E.(2002). Learning Listening Comprehension Skills in English: The Analysis of Japanese Learners' Beliefs and Its Implications. *The Language Teacher*, 26, 15-18, 32
- Stanley, J. (1978) Teaching Listening Comprehension: An Interim Report on a Project to Use Uncontrolled Language Data as a Source Material for Training Foreign Students in Listening Comprehension. *TESOL Quarterly*, 12,3, 285-296
- Ur, P.(1991) *A Course in Language Teaching*. New York; Cambridge: Cambridge University Press
- Wilson, M. (2003) Discovery listening-improving perceptual processing. *ELT Journal*. 57, 335-3439